

～たじみの未来を創造しよう～

令和7年度 市民と議会との対話集会

報告書

多治見市議会では、10月28日から11月13日にかけて、市民の皆さまと議会が意見交換を行う「市民と議会との対話集会」を開催しました。ご参加いただき、ありがとうございました。

今年度は、「みんなで取り組むまちづくり～みんなの住むまちの明日を考えよう～」をテーマに市内8か所（中学校区）で開催し、皆さまから様々なご意見をいただきました。会場ごとのおもな意見をまとめさせていただきましたのでご覧ください。



開催日	場所	参加者数	場所	参加者数
10月28日	本庁舎	12人	笠原交流センター	10人
10月29日	感謝と挑戦のTYK体育館	9人	南姫公民館	10人
11月 9日	駅北庁舎	10人	根本交流センター	12人
11月13日	総合福祉センター	4人	旭ヶ丘公民館	7人
			参加者合計	74人

多治見市と笠原町が合併して20周年の節目を迎えました。写真は、笠原町にあるモザイクタイルミュージアムです。同施設は、令和8年1月17日に来館者100万人を達成しました。

発行：多治見市議会 編集：広報広聴研究会

多治見市日ノ出町2丁目15番地 [議会事務局] TEL0572-22-9899 FAX0572-25-6437

各会場のおもな意見

10月28日 本庁舎

地域力・地域コミュニティについて

- ・養正地区には地域力がある。各コミュニティをつなぐ横串役が必要。また、高齢者が子どもを支えるコミュニティづくりが「住みよいまち」につながるため、世代間交流の促進が必要である。
- ・「地域コミュニティ再生の拠点づくり」や「空き家の利活用支援」が必要

幼稚園・保育園の統合再編について

- ・幼稚園・保育園の統合再編について、歩いて通える地元園を残してほしい。

公共交通について

- ・地域交通の再構築（デマンドバス・コミュニティバスの充実）を検討してほしい。

その他

- ・人口誘導対策と教育環境整備を一体的に検討してほしい。
- ・全世代にバランスよく支援をしてほしい。
- ・中京学院大学の移転について、経済効果だけでなく、地域との共生も重視すべきである。
- ・市議会議員や指導的立場の人を対象とした人権・ハラスメント教育を徹底してほしい。



10月28日 笠原交流センター

地域活動について

- ・自治会も含め、何事にも関心がない人が多いように感じる。まずは、関心のある人を集めてイベントなどを開催し、盛り上げていき、関心を持ってもらえるようにしたらどうか。

学校・子育てについて

- ・学校は、子どもの居場所になれるよう安全・安心で楽しく授業が受けられるとよい。また、保護者と地域の理解が必要である。

空き家について

- ・空き家が増えており、草木が茂って道路に出ていたり、隣の家に枝が伸びたりしている。ボランティアで草刈りをするように言われるが、私有地の草を勝手に刈るわけにはいかない。

外国人との共生について

- ・外国人を雇用している事業主は、ごみ出しのマナーなどについて、しっかり教育をしてほしい。また、外国人との共生について考えるべきである。（同様の意見は駅北庁舎でも出された。）



10月29日 感謝と挑戦のTYK体育館

高齢者等の支援について

- ・高齢化が進む地域に合わせた生活支援・移動支援体制の充実を求める。
- ・高齢者支援にこだわらず、全世代に支援を行うことで、地域全体の活性化につながるのではないかと。

町内会・地域に関することについて

- ・町内会長やPTAの役員の担い手不足は共通の課題である。（同様の意見は、ほとんどの地域で出された。）
- ・ボランティア活動の継続について、参加者はいるが、組織化が難しい。組織を維持するには、リーダーが必要であり、リーダーの育成が急務である。
- ・町内の人の顔が分からず、まちなかで会っても誰か分からない。災害時に誰を頼ってよいか分からず不安である。

その他

- ・情報が発信されていても必要な人に届いていないため、どこで情報を得られるかを周知する工夫が必要である。
- ・インターネット環境は整っていても活用できない。意見を言えない人の声を拾う仕組みが必要である。



10月29日 南姫公民館

土地利用について

- ・市街化調整区域を変更するために、できない理由を挙げるのではなく、どうしたら変更できるのか、研究する必要があるのではないかと。
- ・姫地域の中核は姫駅だと思う。姫駅に人が集中する仕掛けが必要だと考える。
- ・姫地域は市街化調整区域であり、家が建てられないなどの理由から人口減少と高齢化が進んでいる。農業の担い手がいない。

町内会・地域に関することについて

- ・町内会の加入者が少なく、加入するメリットが明確でない。
- ・災害時の避難所で、町内会未加入者の面倒を見ることができないという意識がある。また、避難行動要支援者の個人情報、役員の引継ぎで守られるのか疑問である。
- ・年齢を超えて楽しく触れ合える場所が必要である。

公共交通について

- ・姫地域は買物など、可児市へ行くほうが便利のため、地域あいのリタクシーを可児市まで使えるようにしてほしい。



11月9日 駅北庁舎

自治組織について

- ・自治組織の役員の成り手がいない。また、市民には自治会がなくなると困るという認識がない。

地域活動について

- ・人口が増えるだけでは駄目である。住む人が地域とどう関わっていくかが大事である。地域のつながりが切れると安否確認ができなくなる。
- ・高齢者が積極的に外に出ることで、健康寿命が延び、まちなちも活性化するのはないか。

子育て環境について

- ・子どもを産み、育てていくことができるよう地元でしっかり稼いで子育てできる環境が必要である。

公共交通について

- ・本市はマイカー依存が強い。高齢者の移動手段を考えなくてはならない。

まちづくりに関する提案

- ・まちづくりに関して、産学官が連携したり、専門家の意見を聴いたりして知恵を出し合えば、よりよいまちづくりが見えてくるのではないか。



11月9日 根本交流センター

町内会・地域に関することについて

- ・若い世帯の町内会の未加入や脱退が増え、担い手不足で町内会活動の運営が困難である。
- ・若年層、外国人世帯への町内会加入促進、行政による町内会運営支援（役割軽減、代行制度など）の拡充、空き家の活用、若者世帯への空き家の活用支援が必要である。
- ・町内会が解散したため、防犯灯の電気料金を町内会で負担することができない。電気料金のみを各戸から徴収する仕組みを作ってはどうか。
- ・中学校の分散（根本小学校から複数中学校への進学）も地域離れの要因になっているのではないか。

学校・子育てについて

- ・柔軟な学び方を認め、民間・地域と連携した学びの多様化、不登校支援施設への支援強化、義務教育の枠組みに縛られない農業体験、探究学習などの実践的教育を地域の魅力づくりに結びつけてはどうか。

土地利用について

- ・市街化調整区域や農地が制約となり、再開発が進まない。



11月13日 総合福祉センター

公共交通について

- ・コミュニティバスに人が乗っていないので、いずれなくなるのではないかと心配である。
- ・よぶくるバスについて、周知が行き届いていない。また、早朝や土曜日・日曜日、夜間に使いたくても運行していない。

自治組織について

- ・自治会の役員ができない、やりたくない、必要性を感じないなどの理由で自治会をやめていく人が多い。
- ・アパートのオーナーに何らかの役割を与えて、入居者とともに自治活動ができないか。
- ・自治会の仕事を業務委託してはどうか。

幼稚園・保育園について

- ・希望する幼稚園、保育園になかなか入れない。
- ・0歳から5歳まで継続して預けられる園を増やしてほしい。

その他

- ・市の広報を「きずなネット」に掲載してはどうか。
- ・空き家や空き地が草むらになっている。



11月13日 旭ヶ丘公民館

町内会・地域活動について

- ・希望ヶ丘では、町内会役員のみが活動するのではなく、テーマごとの運営委員会がつけられ、活動経費を支給している。SNSを活用し、会議を簡素化している。
- ・旭ヶ丘では、自治会に未加入の外国人が多く、加入促進には、市の支援が必要である。また、区の運営についても財政的な支援が必要である。
- ・地域力組織は校区を範囲としているため、地域としてまとまることが無理な場合がある。範囲を狭くするなど見直しが必要ではないか。
- ・地区事務所に町内会の役員をフォローする地域コーディネーターの役割を果たせる職員を配置してほしい。

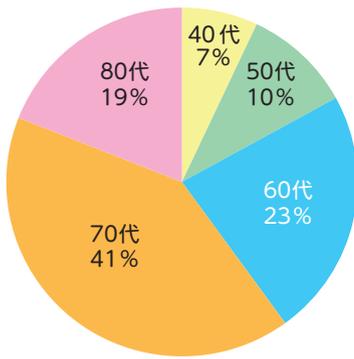
住環境の整備について

- ・地域の住宅は、築40年～50年であり、空き家も増えている。樹木を管理するよう市から指導してほしい。また、市有地で倒れそうな木が多くある。きちんと管理、伐採をしてほしい。
- ・環境整備のため、市内一斉清掃を年に2回実施してほしい。

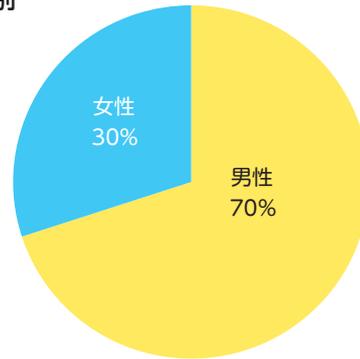


参加者アンケート集計結果

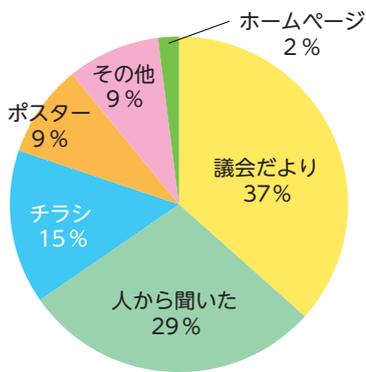
Q 年齢



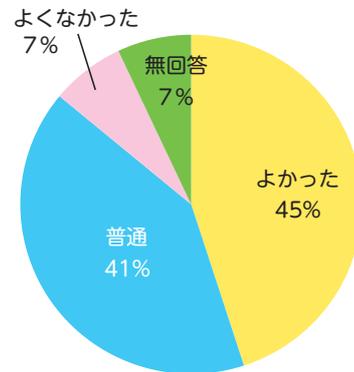
Q 性別



Q 今回の「対話集会」の開催を何で知りましたか？ (複数回答あり)



Q 「対話集会」のテーマ・内容はどうでしたか？



※数値は小数点以下第1位を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合があります。

Q 今回の対話集会でのお気づきの点 (よかった・よくなかった) をご記入ください。

A

- ・人口減少に対する考え方が多様で考えさせられた。
- ・地域の問題を具体的に出してもらえたのは良かった。
- ・公共交通、外国人、自治会など様々なジャンルの問題を認識し、地域で工夫し実践されていることを参考に市政に生かしてほしい。
- ・改めて地域のつながりの必要性を感じた。
- ・町内会について、なくしてはならないものと考えることができた。
- ・若い世代が参加できるような開催方法を考えてほしい。事前の周知にきずなネットなどを活用してほしい。
- ・参加者が少なかったため、開催時間の調整が必要。
- ・地域の問題点のみが強調されている感じである。多治見市全体の問題点を話し合えるとさらに良い。

Q 今後、対話集会で取り上げるとしたらどんなテーマがよいですか？

A

- ・人口減少対策について
- ・各年代で困っていることについて
- ・防災対策について
- ・農業、農地利用について
- ・教育の在り方について
- ・不登校問題について
- ・公共交通 (移動手段) について
- ・中京学院大学の移転について
- ・町内会・自治会の活性化について
- ・地域力の強化について

内容の詳細は、多治見市議会のホームページに後日掲載いたします。→

